

生き物いっぱいプロジェクト2

副校長 岡元 大輔

日野市では、昨年度から第4次日野市学校教育基本構想をスタートさせました。本校は、日野市におけるコミュニティ・スクールのパイオニアとして、学校・保護者・地域と密接に関わりながら教育活動を展開してきた実践を基盤に、さらに活動を充実させていくために、「生き物いっぱいプロジェクト」に取り組んでいます。

プロジェクトの目的は、「児童が花の栽培や農業体験、用水での遊び等に取り組む中で、生き物を慈しむ心を育むとともに、農業の大切さや大変さを実感する」ことです。目的を達成するために、以下のような取組をしました。

- ・校庭の芝管理（みどりの学舎応援隊、保護者の皆様）
- ・全校「一人一鉢」栽培（地域の皆様、校友会、保護者の皆様）
（5・6年：菊、4年：コスモス、3年：パンジー、2年：ミニトマト、1年：あさがお）
- ・農業活動の体験を通じた「食」への感謝と正しい知識の理解（地域の農家の皆様）
（6年：和食器で和食体験、5年：稲作体験、3年：梨園見学・東光寺大根を使ったたくあん作り、1・2年：玉ねぎの種まき・収穫）
- ・用水遊びなどの自然体験活動（1・2年生：用水遊び、4年：用水調べ）

特に昨年度からは、以前は菊の栽培時のみ、中庭に台を設け、皆に見えるようにしながら栽培をしていたのを、全学年が台を利用するように変更しました。そのため、年間通じて各学年が育てている植物を全校の児童や来校者が見ることができるようになり、子供たちがより熱心に植物を育てるようになりました。

これからも、児童自身が主体的に植物を育てたり、地域の自然や農業と関わったりする環境を充実させ、児童が東光寺の地域の良さに気づき、大切に作る風土を築いていきたいと思いをします。

【安全・安心部】 安全な学校と地域の繋がり

大坂の公立学校襲撃事件から本年6月で24年が経ちました。この事件は、教育現場における安全神話の一端が大きく崩れる衝撃的な出来事でした。

この後も、学校、教育現場に対する様々な事件が発生しております。直近では、立川市の小学校に男2名が侵入し、児童の目前で教職員に対して暴行を働くという事件が発生しました。子供を守るため命がけで制圧してくれた教職員の方々。先生方が受けた体の傷。子供たちが受けた心の傷。傷の深さを思うと、1日も早く安全で明るい学校に立ち直れるよう願わずにはいられません。

東光寺小学校も、いつ、どんな事件に遭遇するか。安全安心部としてできることを考えていきます。

- ・地域の皆様とパトロール隊と連絡を密にし、時間のある限り学校に立ち寄り校舎内外の点検をします。
- ・「おやっ？」と思う人や来校者がいれば声を掛けます。
- ・登下校を見守り、子供たちに声を掛けます。

常に地域の目で見守り、常に地域の方々が安心して立ち寄れる学校であるように、大切な東光寺小学校の子供たちの笑顔が、地域の笑顔がいつまでも続くように、明るく安全安心な学校運営を目指します。

（平柳 篤）

【学習部】

私たちコーディネーターの活動は、主に読み聞かせですが、もう一つの取り組みとして、毎年4月からゴールデンウィーク前後にかけて、1年生の支援も行っています。今年は5月末まで支援活動を行いました。

4月当初は、小学校生活にまだ慣れていない子も多く、不安や緊張が見られる場面もありましたが、日を追うごとに少しずつ笑顔が増えていく様子を見て、私たちも嬉しく感じました。授業中は集中力が続かないこともありましたが、声のかけ方やタイミングを工夫することで、子供たちの意欲が高まる場面も見られました。また、一人一人の理解のスピードや興味の違いを意識して支援することの大切さも、改めて学ぶことができました。

さらに、上級生たちの面倒見の良さにも感心しました。たとえば、2年生と出かけた校外学習では、1年生と2年生がペアになって歩きましたが、歩くペースが遅かったり、歩道からはみ出してしまったりする1年生に対して、2年生がやさしく声をかけている様子が印象的でした。また、6年生は登校後、1年生の教室に行って朝の支度を手伝うことになっており、中休みや昼休みも一緒に校庭で遊ぶなど、積極的にお世話をしてくれています。

来年度も、子供たちの成長に寄り添いながら、そのお手伝いができればと思っています。

(キリノ和子)

【環境部】 校庭の芝生 1年間の作業について

東京都の教育環境の一層の充実のための校庭の芝生化から今年で17年となります。

学校に芝生のスペースを設置することで、児童の日常的な運動量が増加し、たくましく健康な体を育むことができるだけでなく、理科教育・環境教育面での体験的な学びの機会が増加しています。

ただ、芝生の維持管理は一部の関係者のみではとても対応できるものではありません。少しでも学校に関わる皆さまの力が必要です。下記に1年間の作業の流れを示しました。芝生の成長を見ながら、芝刈りに参加してもらえたら嬉しいです。

(久松 秀樹)

